

ボランティア 10 則

- 1 . 簡単なことから始めてとにかく継続する。

同好の士で同好会的に、ムリせず、支部全体の活動でなく小さく始める。やると決めた日は、かならず、人数が揃わなくてもやる。定例化しないとジリ貧になる。

2 . 参加の一団体より、小さくても自ら主催団体となる。

長くやるうち、上部団体に対して拘束を感じることもあり。

(例) 行政が上部団体のあるボランティア
行政から作業指示があり、こなすだけ。

会の方針：「楽しみの場をつくろう」

自らやる方が、困難も多いが、やりがい、
楽しみも多い。

助成金などもらうときは有利。

3 . 定刻開始・定刻終了。開始の挨拶・終了の挨拶・お礼をいう。整理・整頓。

だらだらはいけない。ほかとの日程が共存できるようにする。

開始時は当日の作業予定、終了時は作業の評価と礼をいう。感謝の気持ちが大切。

後始末、整理整頓などを大切に。

(例) 竹炭ボランティアの初期 所長に気に入られ、窯の補修をしてもらえた。

4 . 楽しみの場、やりがいの見える化、ステータス向上の場などの工夫

「楽しみ」は、食べて飲むこと。

(例) 竹炭ボランティア：バーベキュー

「やりがいの見える化」は、ホームページ、総会、新春懇親会、行政などの環境イベントで活動発表の機会もつ。ステータス向上の場は、懇親会やイベントの場に、首長、議員、行政部門のトップなどを呼ぶ。

「アドプト・ロード、リバー」などの行政公認の活動になる。助成金有利。

5 . 参加者ふやす工夫・事務局変わる工夫

会員だけの活動では行き詰る。行政の広報・知人などを通じ、会員外のメンバーをふやす。女性メンバーをふやすこと。

(例) 竹炭ボランティア (地域の住人、多支部の会員)

会員外メンバーにも、役割をもってもらうなど、「同化の工夫」が必要。

助成金などもらうとき有利。

事務局が固定すると、活動の内容、人間関係も固定し、ジリ貧となる。

リーダーと複数のサブを置き、円滑に交代できる工夫。

6 . 活動内容展開の工夫

同じことをしていてもマンネリ化するので活動内容を少しずつ展開する工夫
(地元密着の内容の工夫が大切)

(例) 天の川を美しくする会

もともとは、川の清掃、ゴミ拾い

「こども親水行事」

・親子100名余 ・もんどりや網で魚
とりを教える ・大阪府協力

景観づくり 歌碑贈呈・植樹

川の水問題にかかわる

活動の展開で、地元から信頼が集まる。

7 . ボランティア運営の心がまえ 1 . (社会貢献活動やって当たり前 ×)

会員の目線に立った運営が大切

しょせん暇つぶし

楽しい、拘束少ない、終わりは時間厳守
単なる暇つぶしもいや

少しは生甲斐と社会的評価ほしい
継続と包容力

継続すれば、熱心な人そうでない人出る
ともに、公平に扱う

8 . ボランティア運営の心がまえ 2 . (少しやる気をもってもらう)

核になって満足の人、参加だけで満足の人
それぞれともに、

長所を見て使う、居場所を提供する

だれにも、役立ちたい気持ちがある
成功を味合わせる(成果、成長など)

だれにも、評価されたい、成長したい
気持ちがある

ともに成功を味わう機会をもつ。

だれにも、ともによろこびたい気持ち
宿る

9 . 地域の活動、行政の公募委員会などに 参加し緊密な関係を形成

地域密着の活動が大切

会として、または、会のメンバーが会を代表して地域の環境活動などに協力・参加する。
会として、または、会のメンバーが会を代表して行政の公募環境問題委員会などに参加し、意見を提供したり、活動の協力などをする。
そんな中から会の新しい役割や信頼が生まれてくる。

10 . ボランティアリーダーの心がけ

夢をもち夢を語る。しかし現実は一歩一歩
人は日向に集まり、日陰には集まらない
個人の愉快的暇つぶしを集めて社会貢献
「的確な企画」と「前工程づくり」重要
ボランティアのリーダーシップ
「とにかく自分が動く」と「おおきにあり
がとう」と「人使いのコツ」（居場所）
クレームには誠意をもって迅速対応
住民への迷惑、旧勢力への対応
（共存共栄の心）

琵琶湖・淀川環境号への参加について

- 1 . 日時 : 2009年10月24日(土)
- 2 . 主催 : NPOエコネット近畿
- 3 . 内容 : 列車4両で琵琶湖を一周する間、琵琶湖・淀川を中心とした環境問題の講演・話題提供
- 4 . 参加 : 204名(うち松愛会関連25名、P社1名)
- 5 . 松愛会参加理由 : 今年で3年を迎えた「地球温暖化防止活動」への認識を深めるため(近畿地区)
- 6 . 感想 :
 - 1 . 滋賀県や世界では、すすんだ環境取り組みが行われていることを知った
 - 2 . 環境問題解決の推進者は誰?
 - ・ 行政のトップと市民の生活感覚
 - 3 . 便利快適生活のパラダイムシフト始まった
 - ・ くるま社会のまちづくり 脱くるまのまちづくりなど
 - 4 . 環境宣教師(行政トップと学者)とによる市民感覚の変容